

ハディースから第1回

日訳 サヒーフムスリム より

アナス・ビン・マーリクはこう伝えている

アッラーの預言者はムアーズ・ビン・ジャバルに対し、彼が預言者の後ろで共に口バの背中に乗っていた時、「ムアーズよ」と呼びかけられた。ムアーズは「あなたのお側におります。何なりとご用命下さい」と答えた。このことが三度繰り返された後、アッラーのみ使いは次のように言われた。「アッラー以外に神はなく、ムハンマドは神のしもべであり、神の使徒であると心底から証言するものであれば、だれでもアッラーにより地獄の業火から守られるであろう」これに対してムアーズが、「その事実を人々に知らせて喜ばせてはいませんか」といったところ、み使いはこういわれた「もし、彼らに知らせたならば、彼らはただそれだけに頼ることになるだろう」ムアーズは、この話を彼の死の床において初めて語ったのであるが、それは**人々に過ちを犯させないため**であった。

このハディースから学ぶこと

アッラーの優しさと人間の弱さではないでしょうか？

信じるだけで何もしなくていいのであれば、ほとんどの人間はその弱さゆえ、日々の生活に夢中になりアッラーを忘れてしまう。忘れるとどうなるかは明白ではないでしょうか？カーフィル（背信者）となってしまいます。

人間の弱さを知っているからこそそのハディースだと思います。

人間に無理なことは命令しない。その最たるものだと思います。

周りにムスリムがいてカーフィルに近づきつつある同胞がいたら是非皆様の力で助けてあげましょう。

お祈りをしない。豚を食べる。酒を飲む。なんて微々たる事です。

「ラーイラーハ イッラッラー」これを信じなくなるといふ私達も努力すべきだと思います。

これに関して次のようなハディースもあります。

イスラームの最重要な教えについて

スフヤーン・ビン・アブドッラー・サカフィーは伝えている

私はアッラーのみ使いにこういった「あなたが亡き後（もしくはあなた以外に）イスラームに関して誰にも質問する必要のないほどに重要な事項を教えてください」これに対しみ使いは「アッラーを信じます と唱え、それを固く守っていくことです」といわれた。

イスラームは優しい宗教であり、また現世で人間の生活を試されるものではないでしょうか？

アッラーの優しさの一つに次のようなハディースがあります。
簡略します。

善行及び悪行の記録について

アッラーはこういわれた

「私のしもべで善行をしようとして実施しなかった場合は善行 1 を記録する。しかし、それを実行した場合はその程度に応じて 10 から 700 の善行印を記録する。悪行を犯そうとしながら実行しなかったものには何も記録しない。そしてもし実行したとしても悪行 1 つと記すのみである」

ただし、優しさだけのいいとこ取りを故意にすることは悪行になります。

人間は本当に弱い生き物です。

出来る努力を惜しまないようにしたいものです。